



吉田川・高城川 流域治水 キックオフ イベント

Event Kickoff!!

過去から学ぶこと
知って備える

いままでも これからも “みず”から守る流域治水

R5.5.16 撮影

場 所 吉田川志田谷地防災センター

日 時

2023
8/5(土)
10:00~13:00

後援 国土交通省 東北地方整備局
北上川下流河川事務所
大崎市

協賛 吉田川河道掘削工事協議会
鹿島台管内維持協議会
株式会社 ジー・オー・ピー

主催 流域治水オフィシャルサポーター (R5.6.30認定)
りゅうちるネットワーク (R5.4設立)



流域の洪水と治水の歴史

主な自然災害

- 明治43年 8月洪水 1910年(明治43年)◆
- 大正2年 8月洪水 1913年(大正2年)◆
- カスリン台風 1947年(昭和22年)◆
- アイオン台風 1948年(昭和23年)◆
- 昭和25年 8月洪水(台風10号) 1950年(昭和25年)◆
- チリ地震津波 1960年(昭和35年)◆
- 宮城県沖地震 1978年(昭和53年)◆
- 昭和61年 8月5日洪水 1986年(昭和61年)◆
- 平成14年 7月洪水(台風6号) 2002年(平成14年)◆
- 宮城県北部地震 2003年(平成15年)◆
- 岩手・宮城内陸地震 2008年(平成20年)◆
- 東日本大震災 2011年(平成23年)◆
- 関東・東北豪雨 2015年(平成27年)◆
- 令和元年東日本台風 2019年(令和元年)◆
- 令和4年 7月洪水 2022年(令和4年)◆

主な治水の計画・工事

- ◆1693年(元禄6年) 品井沼干拓
元禄潜穴開削(1693~1698)
- ◆1905年(明治38年) 明治潜穴開削(1905~1910)
- ◆1925年(大正14年) 吉田川背割堤(1925~1941)
- ◆1933年(昭和8年) 幡谷サイフォン(1933~1934)
- ◆1935年(昭和10年) 品井沼干拓工事(1935~1950)
- ◆1951年(昭和26年) サイフォン延長(1951~1952)
- ◆1966年(昭和41年) 鳴瀬川水系工事実施基本計画策定
- ◆1980年(昭和55年) 鳴瀬川水系工事実施基本計画改定
- ◆1986年(昭和61年) 激甚災害対策特別緊急事業(1986~1990)
- ◆1988年(昭和63年) 水害に強いまちづくりモデル事業(1988~)
- ◆1994年(平成6年) 吉田川三線堤(1994~2013パイパス区間)
- ◆2003年(平成15年) 鳴瀬川中流部緊急対策特定区間事業(2003~2022)
- ◆2006年(平成18年) 鳴瀬川水系河川整備基本方針策定
- ◆2007年(平成19年) 鳴瀬川水系河川整備計画策定
- ◆2011年(平成23年) 内陸部災害復旧事業(2011~2014)
- ◆2017年(平成29年) 鳴瀬川床上浸水対策特別緊急事業(吉田川)(2017~2022)
- ◆2020年(令和2年) 吉田川・新たな「水害に強いまちづくりプロジェクト」中間とりまとめ
- ◆2021年(令和3年) 流域治水への転換
- ◆2022年(令和4年) 吉田川・新たな「水害に強いまちづくりプロジェクト」
鳴瀬川水系河川整備計画変更(2022年9月)
- ◆2023年(令和5年) 吉田川・高城川 特定都市河川指定

明治

大正

昭和

平成

令和

地域の昔と今

令和4年(2022)

現在の吉田川(幡谷サイフォン付近)

昭和22年(1947)

土地の利用方法が変わって、市街化されてきたよ

堤防が整備されたよ

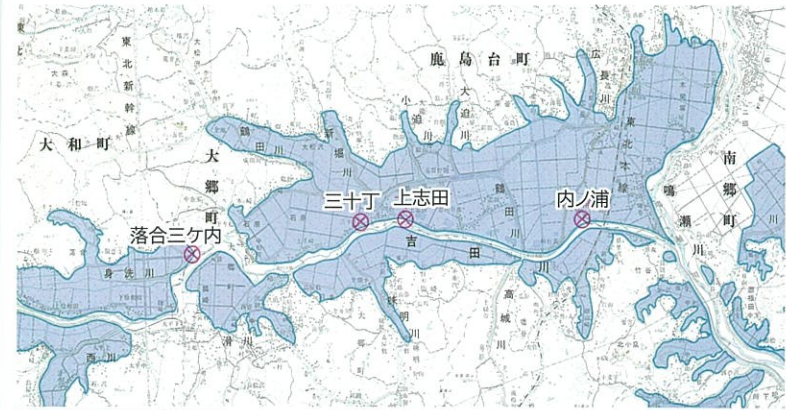
大正5年当時の吉田川周辺地図

昭和61年8月洪水

令和元年東日本台風

昭和61年8月4日から5日にかけて、吉田川流域では流域平均300mmを超える降雨があり、吉田川では堤防が4ヶ所で決壊し、大崎市（鹿島台）を中心に最大12日間も冠水し、甚大な浸水被害を受けました。

令和元年10月12日～13日にかけて非常に激しい降雨となり、吉田川では、33箇所で堤防越水・溢水が発生しました。このうち1箇所が堤防決壊し、約5,540haが浸水被害を受けました。



⊗ 堤防決壊箇所
 浸水面積：約6,050ha
 家屋全壊：43戸
 家屋半壊：197戸
 床上浸水：323戸
 床下浸水：327戸



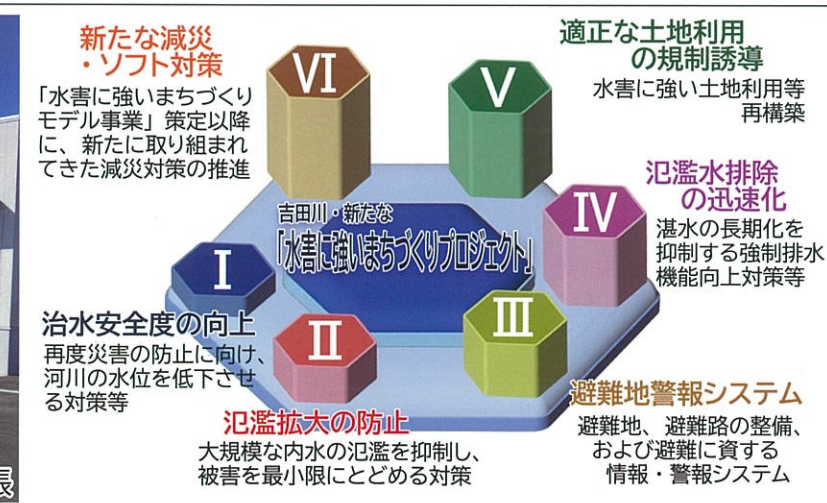
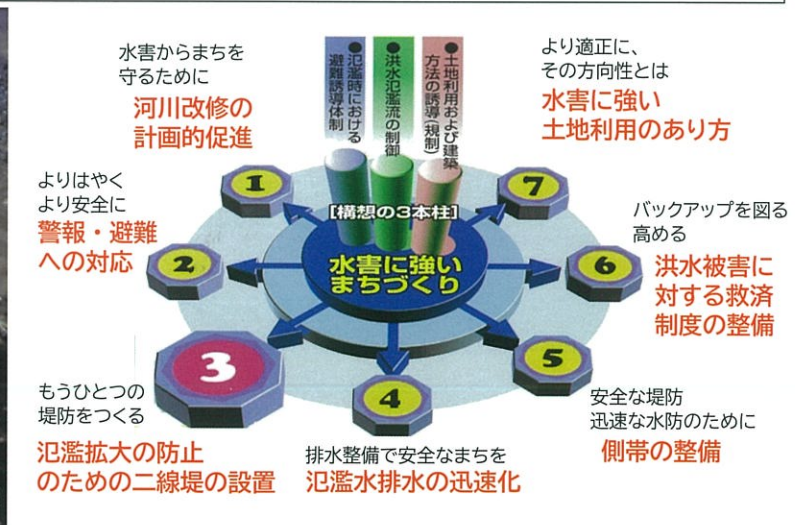
浸水面積：約5,540ha
 床上浸水：492戸
 床下浸水：186戸

水害に強いまちづくりモデル事業

吉田川・新たな「水害に強いまちづくりプロジェクト」

昭和61年8月の洪水を教訓に、大崎市（旧鹿島台町）、大郷町・松島町の被災地域で、「水害に強いまちづくりモデル事業」に取り組みました。水害に強いまちづくりは、「地域全体を構造的に水害に強い形態へと変えて、地域の壊滅的被害を防止する」現在の流域治水の考え方に通じる先駆的な総合治水の取り組みです。

令和元年東日本台風で再び甚大な被害が発生したことを受けて、吉田川・新たな「水害に強いまちづくりプロジェクト」を取りまとめました。新たなプロジェクトは、モデル事業の概念や施策を引き継いで、流域のあらゆる関係者が協働して「流域治水」を実践し、人命と地域の生業を守る「安全・安心な社会の形成」を目指しています。



吉田川・高城川の目指す流域治水

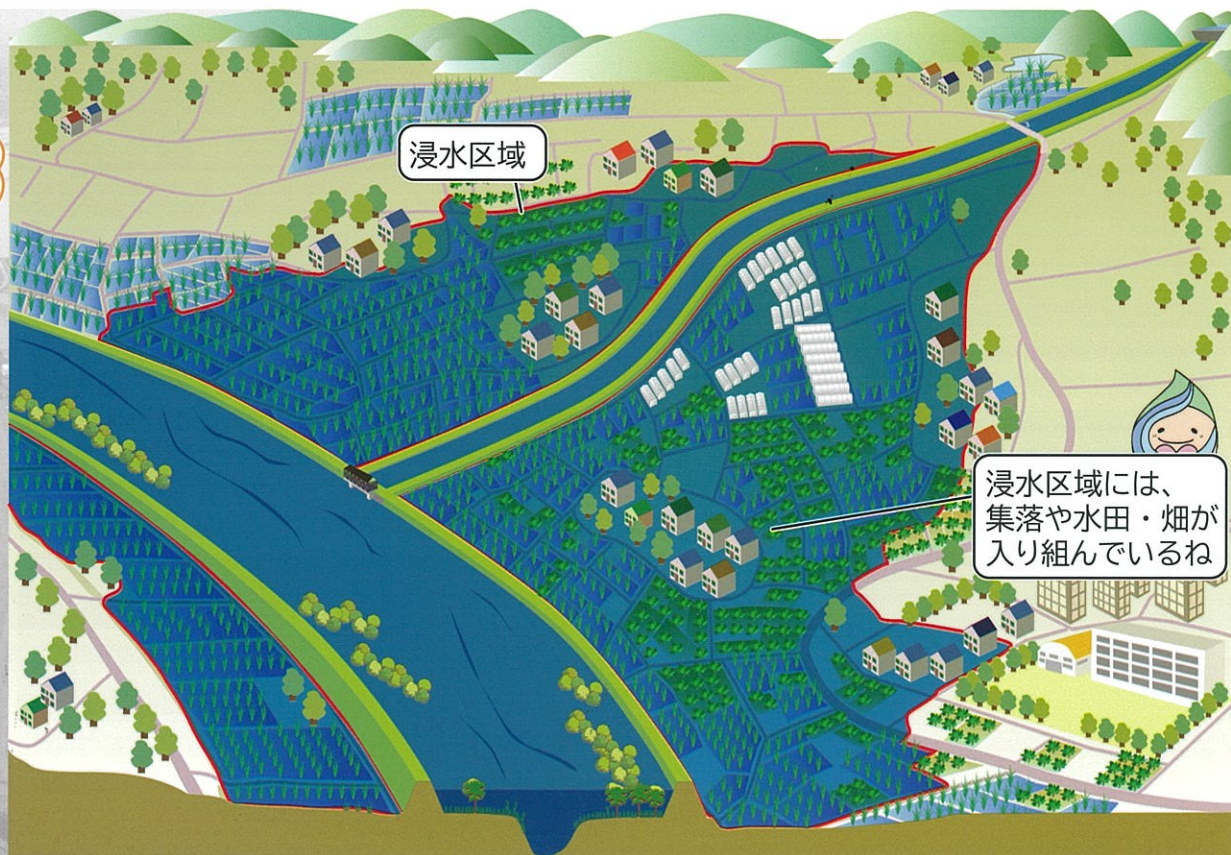
吉田川を目指す「流域治水」では、地域の特性を踏まえて、「①氾濫をできるだけ防ぐ、減らす対策」、「②被害対象を減少させるための対策」、「③被害の軽減、早期復旧・復興のための対策」に、「④命と生業を守る流域のサポート」を加えた4本の柱で、ハード対策・ソフト対策一体で多層的な対策を進めていきます。

対策実施前

家屋もたくさん浸水しているね

畑も浸水しているから、農作物の被害も大きいね

川に排水する力が小さくて、浸水が長引いているようだね



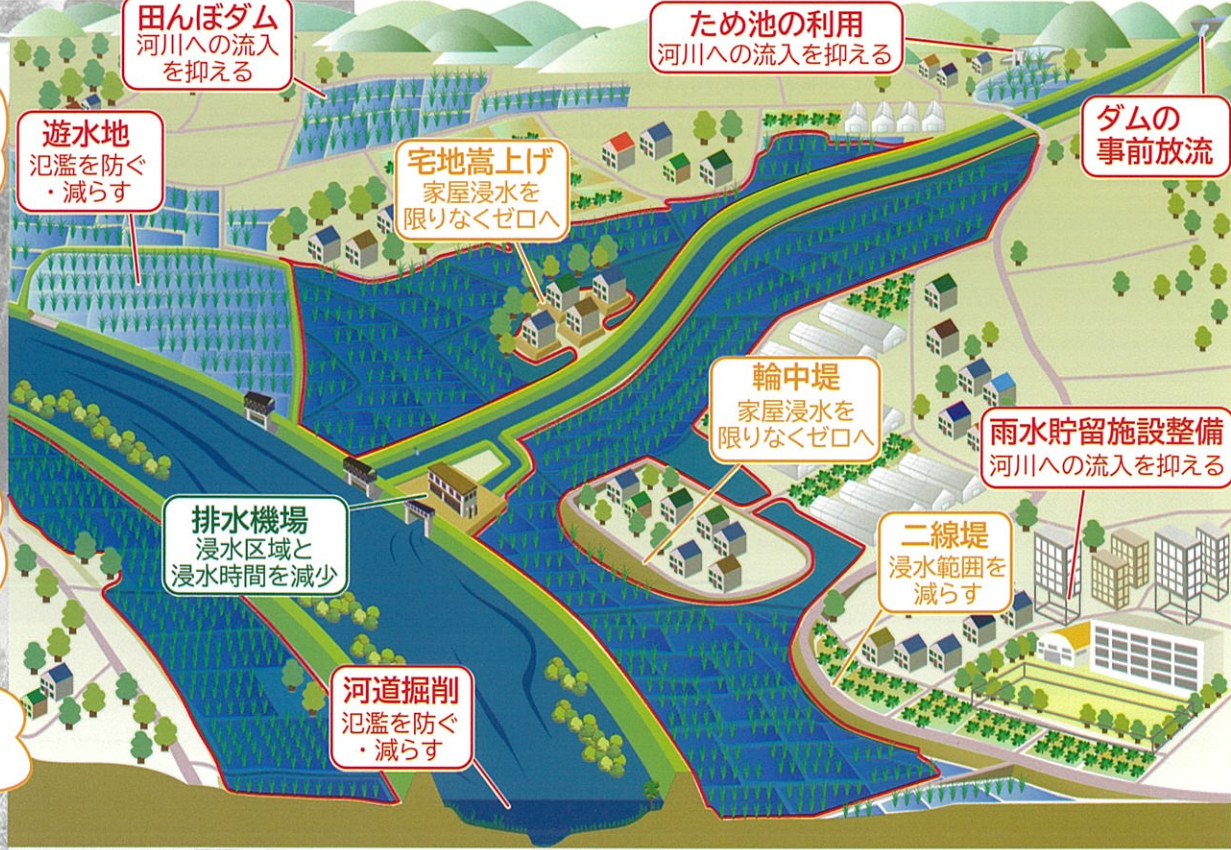
対策実施後

家屋が浸水しなくなったね

高収益作物のある畑が浸水しなくなったね

ため池やたんぼダム、街中の貯留施設で雨をためて、川が溢れないようにしているんだ

排水機場で川に排水する力を増やして、浸水を早く終わらせるよ



- 吉田川の流域治水「4本の柱」**
- ① 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策
 - 河道掘削
 - 遊水地の整備
 - 雨水貯留機能の拡大、等
 - ② 被害対象を減少させるための対策
 - リスクの低いエリアへの誘導
 - 住まい方の工夫
 - 浸水範囲を減らす（二線堤の整備）、等
 - ③ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策
 - 氾濫水を早く排除する（排水機能の強化）
 - マイ・タイムライン普及促進、等
 - ④ 命と生業を守る流域のサポート
 - 持続可能な生業の体制構築、等

吉田川・高城川における流域治水の取組

吉田川・高城川流域には、山から海まで、たくさんの方が暮らし、訪れます。その全ての方が、「流域治水」の関係者です。皆が出来ることから、『“みず”から守る』活動をはじめ、流域の『関係者』がつながる地域を目指します。

こんな取組が始まっているよ

地域を守る溢流堤 (前川承水路)

水防災拠点の機能拡張

ヤナギの芽刈り取り

家屋浸水対策に関する研修会

流域治水シンポジウム 吉田川流域治水

水害に強いまちづくり講演会

流域治水パトロール

上流に住む人たち、下流に住む人たち、それぞれがお互いのことを理解しあって、皆で取り組むことが大事なんだ

開催の趣旨

本地域は、昭和61年8月5日の豪雨災から37年、これまで平成27年関東・東北豪雨、令和元年東日本台風、令和4年7月記録的豪雨により、堤防決壊や越水による被害は甚大であります。こうしたことから、吉田川・新たな『水害に強いまちづくりプロジェクト』の実践や『“みず”から守る流域治水』の推進など、過去の教訓や対策を活かした、さらに地域の安全を高める流域治水のトップランナーとしてのキックオフイベントを開催します。

MAP



山の源流から流れ出る吉田川と鳴瀬川、そして鶴田川。
過去に何度も大雨で川が氾濫し、
浸水などの災害がございましたが、
その都度みんなで協力し立ち上がってきました。

私たちは
「吉田川・新たな水害に強いまちづくり」を目指します。
水の恵みで、大地や海に命を与えます。
水を大切にすることが、自らの命を守ります。

この豊かな水を未来につなぐために、
皆で安心安全なまちづくりをすすめよう！

マスコットキャラクター

りゅうちる

りゅういきちすいをまもる

全体は水の形
ハートを抱えて
守っているイメージ

吉田川
鳴瀬川



水から守る！ 自らを守る！
地域を‘みず’から守る流域治水